はじめに

近年の産業・経済の構造的変化や雇用の多様化・流動化等を背景として、就職・進学を問わず、子どもたちの進路をめぐる環境は大きく変化しています。このような環境にあっても、様々な課題に柔軟にたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくことができるよう、「生きる力」を育む教育の推進が求められています。

平成 16 年１月に取りまとめられた「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」（文部科学省）では、キャリア教育を「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度を育てる教育」ととらえています。そして、小・中・高の連携を意識し、学校教育全体を通して、組織的、系統的にキャリア教育を実践することを求めています。

本県では、「とちぎ教育振興ビジョン(二期計画)」に基づき、キャリア教育推進に関する様々な施策が展開されており、平成 19 年３月には、「キャリア教育推進の手引き(小学校編)」が発行されました。

総合教育センターにおいても、平成17年度より、キャリア教育に関する調査研究に取り組んでおり、平成18年３月に、「キャリア教育の視点を生かした進路指導の工夫・改善に関する参考資料（中学校・高等学校編)」を、県内の高等学校と中学校に配布しました。本冊子は、その続編として、小学校でキャリア教育を実践するに当たっての基本となる考え方や方策についてまとめたものです。各学校での校内研修や実践の参考資料としてご活用いただければ幸いです。

終わりに、本冊子の作成に当たり、ご指導、ご助言をいただいた上越教育大学大学院臨床コース　三村隆男助教授に、深く感謝申し上げます。

平成 19 年３月

栃木県総合教育センター所長

五味田 謙一

目　次

◆　**本冊子の活用に当たって**

第1章　キャリア教育について理解しましょう　〈理論編〉　・・・・1

Ｑ１　キャリア教育とはどのようなものですか？　・・・・2

Ｑ２　キャリア教育で育成を目指す能力や態度には、どのようなものがありますか？　・・・・4

Ｑ３　なぜ、小学校段階からキャリア教育に取り組む必要があるのですか？　・・・・6

Ｑ４　小学校のキャリア教育では、どのようなことを重視しているのですか？　・・・・8

Ｑ５　小学校でキャリア教育を進める際には、どのようなことに留意するとよいのですか？　・・・・10

Ｑ６　児童へのかかわり方や支援については、どのようなことに留意するとよいのですか？　・・・・12

第2章　キャリア教育を実践しましょう　〈実践編　1〉　・・・・15

Ｑ７　小学校では、どのようなことからキャリア教育を始めればよいのですか？　・・・・16

◆教科の学習とキャリア教育との関連　・・・・18

【事例　1　国語科】　「十さいを祝おう」　・・・・20
・　友達との学び合いを通して、コミュニケーション能力を高める

【事例　2　社会科】　「地域の安全を守る仕事」　・・・・22
・　見学やインタビューを通して、働く人や社会への関心を高める

【事例　3　理　科】　「電池の働きを調べよう」　・・・・24
・　電気の性質や働きについて学習し、生活を支える科学技術への関心を高める

【事例　4　生活科】　「かぞくだいすき」　・・・・26
・　学校と家庭をつないだ学習を通して、働くことの喜びを実感し、役割の大切さに気付く

【事例　5　音楽科】　「様子を思いうかべてアレンジしよう」　・・・・29
・　グループで原曲をアレンジする活動を通して、自他のよさや表現の多様性に気付く

【事例　6　体育科】　「けんこうな生活」　・・・・32
・　自分の生活を振り返り、健康によい生活の仕方を理解する

◆道徳教育とキャリア教育との関連 ・・・・34

【事例 7　道徳の時間】「希望をもって」 ・・・・36
・ 総合単元的な道徳学習を通して、目標の実現を目指す道徳的実践力を高める

【事例 8　日常的な生活場面】「働くことはだれのため」 ・・・・38
・ 日常生活における役割の経験を振り返り、働くことへの意識を高める

◆特別活動とキャリア教育との関連 ・・・・40

【事例 9　児童会活動】「運動会の成果を生活に生かそう」 ・・・・42
・ 運動会に関する活動を振り返り、体験を通して学んだことを学習や生活につなげる

【事例 10　学級活動】　「自分を見つめよう」 ・・・・44
・ 友達との交流を通して、自己理解を深め、自己の可能性を広げる

◆総合的な学習の時間とキャリア教育との関連 ・・・・47

【事例 11　総合的な学習の時間】「地域で働く人から学ぼう」 ・・・・49
・ 地域の人とのかかわりを通して、実社会に触れ、働くことの喜びや意味について考える

第3章　学校全体で取り組みましょう　〈実践編 2〉 ・・・・53

Ｑ８　学校全体での取組にしていくためには、どのようにすればよいのですか？ ・・・・54

Ｑ９　キャリア教育の計画を作成する場合には、どのように立案すればよいのですか？ ・・・・60

Ｑ１０　家庭や地域とどのように連携してキャリア教育に取り組んでいくとよいのですか? ・・・・66

キャリア教育に関する資料 ・・・・71

◆　本冊子の活用に当たって

本冊子は、小学校におけるキャリア教育についての理解と各学校における実践を支援することを目的として作成したものです。

キャリア教育は、全く新しいことを始めるのではなく、取組の視点を変えることによって、今までの教育活動をとらえ直そうとするものです。各学校においては、教育活動全体を通じて児童の「生きる力」をはぐくむ教育が行われており、様々な教育活動の中には、キャリア教育の視点からも評価すべき実践が数多く見られます。そうした取組を確認するとともに、「将来の自立のために必要な態度や能力を発達段階に応じて身に付けさせる」という視点で教育課程を見直すことによって、目の前の子どもの成長を長期的で全体的なものとしてとらえ、各教科等の関連や単元のつながり、年間あるいは学年を超えた指導の継続性など、教育活動相互のつながりを、より意識して教育活動に当たることができます。

本冊子は、第１章の「理論編」と、第２章及び第３章の「実践編」とで構成しました。第１章「理論編」では、キャリア教育を実践するに当たっておさえておきたい基本的な考え方について、Ｑ＆Ａで整理しました。第２章「実践編１」では、授業でどのように取り組むことができるのかということについて、第３章「実践編２」では、学校全体でどのように推進していくのかということについて、それぞれ事例を示しながら解説しています。

本冊子の活用に当たっては、校内研修等において「理論編」を読んで全体的な理解を図ることもできます。また、担任あるいはキャリア教育推進の担当として、「実践編」を読んで、実際の取組を具体的に考える手がかりにすることもできるでしょう。先生方が、キャリア教育の実践の第一歩を踏み出すための参考資料としていただければ幸いです。